

POWER FILE ★ 1143

FM
94.9



コロナ禍を乗り越え、祇園祭の活気とラジオの熱を発信。

コロナ禍で中止を余儀なくされていた祇園祭山鉾巡行が、今夏、3年ぶりに行われることになりました。地元メディアとして、毎シーズン祇園祭と山鉾町に寄り添い続けてきたKBS京都ラジオも、久しぶりの活気に沸く山鉾町へ。前祭、後祭の中継リポートをはじめ、祇園祭に関するさまざまな情報と話題をみなさんへお伝えしています。



さらに前祭の宵々山、宵山にあたる7月15日(金)・16日(土)は、恒例の『KBS京都祇園祭パーク』を綾傘鉾前にオープン。協賛企業や店舗の物産展で賑わいを呼ぶとともに、ラジオリポートや公開生放送、音楽ライブなどのイベントも実施し、街とラジオの元気を伝える交流ステーションとして、祭を楽しむ人々と交流しました。

祇園祭パークから、各日2番組を公開生放送＆収録。

15日(金)の祇園祭パークでは、14時30分から『山田啓二のローカルフィット』(14時30分～15時30分)を公開生放送。会場の拍手から幕を開け、山ちゃんこと山田啓二と河島あみるによる軽快トークが山鉾町に響きました。

風情ある浴衣姿の二人。前京都府知事として祇園祭を間近で見続けてきた山ちゃんのミニ知識をはじめ、山内美和リポーターによる山鉾町リポートも盛り込みながらお届けしました。終盤は、この後の番組から竹内弘一と桂南光、桂米紫が合流。笑いいっぱい賑やかなエンディングとなりました。



そのままのテンションで『竹内弘一のこういっちゃナンですが』(15時30分～17時)に突入。番組初の公開生放送に、三人も意気揚々で挑みます。

それぞれの祇園祭の思い出などを披露しながらのオープニングの後、米紫は台本のない中継リポートへ出発しました。

ゲストコーナーでは綾傘鉾保存会の寺田理事長を迎えて、綾傘鉾の由来や見どころなどご紹介いただきました。

一方、あてもなく山鉾町をさまよう米紫は、太子山、木賊山とまわって、高辻新町のごみステーションで学生ボランティアにインタビュー。近所のお寺に泊まり込みでの活動に、一同が感激するリポートタイムとなりました。



街とラジオの賑わいに沸く山鉾町から

翌日の宵山16日(土)は、お祭り男、森脇健児&かみじょうたけしがパークに参上。『森脇健児のサタデースタジアム』(12時～13時)を元気いっぱい公開生放送しました。

パーク内のブース担当者や、集まったギャラリーと爆笑のやりとりを繰り広げるサタスタならではの楽しい時間。満席の会場では、リスナーに混じってますだおかだの増田さんの姿も発見し、大爆笑のオンエアとなりました。



そして15時からは『夜の本気ダンスのラジダン!』(金/23時～24時)を公開収録。大人気のダンスミュージックバンド、夜の本気ダンスの登壇に、パーク内は若いファンの姿にあふれました。

両日ともに、パークに出展する高知県、島根県からのゲストを交えつつ、それぞれの文化や逸品などにまつわるご当地トークもお届けしたステージ。公開生放送＆収録ステージのほかにも、15日(金)は内田あや祇園祭ライブ、16日(土)はよさこい演舞なども開催し、祇園囃子響くパーク内は、活気と祭情緒に包まれました。

山鉾をめぐる人の手に、KBS京都オリジナルうちわ。

また、KBS京都ラジオの祇園祭企画で欠かせないのが、オリジナル祇園祭うちわ。今夏も15日(金)・16日(土)に、菊水鉾周辺で無料配布しました。

例年、多くの方々に楽しみにいただいている人気企画。今年も配布時間が近づくと、待ちかねた方々が行列をつくる人気ぶりとなりました。

2022年バージョンは、暮れゆく空に駒形提灯の灯りが浮かぶデザイン。散策にぴったりの山鉾町マップも裏面に記載され、用意した約2万枚は、大好評につきほどなく配布終了となりました。

浴衣姿の配布スタッフは、平安女学院の学生ボランティアさん。うちわを手渡された人々は、マスク越しにもわかる笑顔で、一幅の風で涼みつつ、久しぶりに京の街に帰ってきた熱気と風情を楽しんでいました。

まだまだ続く、祇園祭コンテンツ。7月31日(日)12時から13時には、196年ぶりに巡行復帰を果たす鷹山の特別番組『神さんのひとやすみ～祇園祭・鷹山 令和へ羽ばたく』を放送します。KBS京都ラジオは、地域の歴史や文化に寄り添いながら、その魅力を伝え続けていきます。



KBS京都Radio